

内容

パラムーブメントをひろめるためにポッチャをした。そのためにわたしはポスターをつくりました。みんな、みてくれてつたわったとおもいます。3年生にもポッチャをやりました。やってよかったとおもいました。かわさきパラムーブメントをしてもらえてよかった。

私は講師の人といっしょにポッチャをやって、足が無い人、本人にも聞いてしょうがい者だから無理じゃなくてしょうがいしゃだからできるしょうがい者はかわいそうと思うことはちがうということに気がきました。なので、これからはかわいそうじゃなくて、それでもいっしょに楽しめるものをさがすのが大切だと思いました。

私がかわさきパラムーブメントとSDGSの関係について考えたこと。
SDGSは17この目標があり、これを2030年までに達成しなければならないことで、今、問題になっている海洋プラスチックゴミ、いわゆる海の命について考えました。7月のスーパーなどのレジぶくろが有料になったことで、私の家はレジぶくろをあまりもらわなくなりました。ぶくろを買わないのは、海にえいきょうをあたえませんが、今度は、ゴミに出すためのぶくろがなくなって、スーパーでポリぶくろを買っていました。だから、同じゴミをふやしてしまっていると考えました。でも海洋プラスチックゴミは2025年までにくいとめる。海のおせんは、ポイステから風や風雨で川にながされ、川に流れているうちに、マイクロプラスチックになり、海の生き物にもえいきょうが出ているから、まずポイステをへらしたほうがいいと考えました。だから、かわさきパラムーブメントのみんなが安心してらせるまちづくりにもかんけいしているので、両方がんばりたいです。

さいしょはかわさきパラムーブメントをしらなかった。でもそう合のじゅぎょうで、講師の人のなをしをきて、パラムーブメントの活動ないようにした。そのあとは、くるまイスバスケットなどいろんなことをした。いままではしょうがいしゃはたいへんだとおもったけどいろんなことをたいけんしてしょうがいしゃもじぶんたちといっしょで人間なんだからたいへんではないということがわかった。

ぼくは、さいしょかわさきパラムーブメントのことをよくしなかったけど、講師の人にあって、パラムーブメントはなんのためにするのかががりました。

私は講師の人とズームをしたとき、私は、学習を通して、世界には、色いろなちがいを持っている人がいるということを知りました。自分自身では、障がいがある人は、そんなに、いないと思っていたけど、実さいに、ズームで、学習すると、障がいがある人は、すぐいと聞いて、初めて考えが変わりました。

パラムーブメントをひろめるためにちいきの人をさそっていっしょにポッチャをやった。ポッチャは子どもから大人まで楽しめるスポーツです。ぼくはポッチャをやってみただれでもできてだれでもたのしめるスポーツだと思いました。

わたしは、パラムーブメントの事について知って、最初はそんなのがあるのだな、ていどに聞いていました。だけど、ポッチャや車いすバスケットという物を体験して、パラムーブメントはとてもやさしい物なのだなあ、と思い始めました。
かってにおもてなし大作戦のムービーなどを見て、さらにその思いは強くなりました。最初は全然きょう味も無かったわたしが、こう思うのはふしぎだなあとビックリしました。そしてわたしは、パラムーブメントを広めたくなり、自分たちで、ポッチャの大会をして、後はいなどに広めました。
後はいなどもパラムーブメントにきょう味をもってほしいとわたしは願います。

最初は車イスの人やしょうがいの人のことがすごくかわいそうだと思っていたけど、講師の人は「全然きにしていない」と言っていたので、体はちがうけど、心はみんなといっしょだと学びました。
また、車イスの人がいたらきにしないで、自分といっしょだと考えていきたいと思いました。

ぼくは、●●小学校の●年●組で「パラムーブメントを広げようプロジェクト」をやっています。そこで、色々な人にパラムーブメントを知ってもらうためポッチャを広めることにしました。まずは講師の人とポッチャをプレイをして、次に保ご者の方々と、次に3年生と楽しみ、という感じでさまざまな方とやってみて、自分は「全ての人がパラムーブメントを知ってほしい」と思いました。理由はパラムーブメントとは「ちがいを知ることを楽しむこと、親友の自分とちがうところを大切にすること」という意味なので、義足をつけている人もいれない人もいる。など自分とちがうところがあっても、そのちがいを大切にすれば地球上全ての人にやさしくできるから、よりパラムーブメントを広めて知ってほしいです！！！！

私は、かわさきパラムーブメントの事を学習して、最初は、川崎のくらしをかってにおもしろくするおもてなしをしているのは知りませんでした。でも、講師の人によって車イスバスケのことや、パラムーブメントの事などを知れてよかったです。ポッチャもおしえてもらって3年生にポッチャ体験やお母さんたちにポッチャを教えて楽しかったです。これからもかわさきパラムーブメントを日本じゅうにひろめていきたいです。

わたしは、かってにおもてなし大作戦ということをやりました。その中でも一番いんしょうに残ったのは、ほご者の人たちと、ポッチャというスポーツをやったことです。ポッチャとは、はば広い人たちと出来るスポーツのことです。わたしは、より多くの人に、パラムーブメントの事、ポッチャというスポーツの事を知ってもらいたいと思っています。この世の中には、多くのしょうがいを持った人がたくさんいます。そんな人たちでも楽しめるようなスポーツそれがパラスポーツです。このメッセージを通して、パラムーブメントの事を知ってもらえたらいいと思っています。わたしもポッチャを体験したことがあります。体験して感じたことは、一人一人のちがいが見えてきました。なにかも同じではなくていい。ちがいであってもいいと思います。だから人をせめず、ちがいを受け入れることも大事だと思いました。

私が、SDGsの本を見て考えたことはこの世界にはいろいろな格差があるということです。世界には食料などがとれずに生活のままならない国や水がきたなくて飲めなかつたりする国がいっぱいあります。なので私たちがのこした食料は本来はその人たちにあげられたかもしれません。

こういうことをすることで世界にさまざまなえいきょうがおよびます。なので食料は大切に、自分が食べられるぐらいといわれているのです。

SDGsはこのようなにならないように取りくんでいるのです。

このことをすることでもっともっとみんなが住みやすいかわさきになる、と思うので、SDGsも、かわさきパラムーブメントも両方がけたいと思いました。

ぼくは、ポッチャを体験して学んだことは、しょうがいや年れいなど関係なく楽しめる最高のスポーツで、ちがいを感ぜられることを学びました。

1つ目は、ちがいです。ちがいはいろいろあって、ポッチャの場合、投げ方や転がし方が違うので力がちがったり、しょうがいで力が出なかつたりします。二つ目は、最高のスポーツの理由です。ポッチャは知らない人でもルールがたんじゅんでかんたんだからです。このようなことをポッチャで学びました。

はじめは別に他の人とおなじでいいじゃんと思っていたけど、講師の人の話を聞いてちがうことは大切なんだなと思いました。そして「ちがって最高で最強」をあひ言葉にしてパラムーブメントを広めてきたなと思います。地域の人におもてなしをしたのもパラムーブメントを広めるために計画したんだなと思うし、3年生にも地域の人にもパラムーブメントを教えてあげられたなと実感します。なぜなら、学校にもポスターをはったし、家族にも話で言ったので、実感しています。

これから生活に活かせることは、しょう害者がいても笑わず、その人を理解することが大切だと思うので生活に活かしたいです。

僕はこの勉強を通して、色々な事に気付きました。

一番印しょうに残っているのは「ちがって最高で最強」です。最初は「同じが、一番！」だと思って「ちが」と「同じ」だったらいつも同じをゆうせんしていたけれど、講師の人とZoomで話したとき「ちがって最高で、最強」という言葉を学び、そこからは、同じもいいけれど、ちがもいいということに気付きました。

私は、総合のじゅぎょうで、ポッチャをやることになりました。ポッチャは、子ども、小学生、大人、だれでも参加できるあそびです。ポッチャのボールは自分達で作れ、コートは、体育館にテープで線を引きました。そして、講師の人と、ポッチャをしました。その時講師の人が教えてくれた「ちがって、最強で最高」という言葉を教えてくれて、「ちががあるから、友達になれる」とも教えてくれました。今まで、私は「同じことが大切！同じだからなかなよくなる！」と思っていました。でも、ちがも大切だということが分かりました。ポッチャは講師の人だけでなく「かってにおもてなし大作戦！」でもやりました。近所の人達を学校にしょうたいし、いっしょにポッチャをやりました。「かってにおもてなし大作戦！」では、ほかの学校の人達がやったことも、テレビ（ユーチューブ）で流していました。私はこれから「ちがいが大切」という言葉を大事にしていきたいです。

わたしは元々なげるのがへたでした。でもかわさきパラムーブメントのポッチャをとおして、なげたりするのが、うまくなりました。うれしいです。

ポッチャは老人や、赤ちゃん、大人までできるし、それに、きこえない人や、みえない人たち（しょう害者）もできるので、なにふじゆうなくて、ついでにたのしくできて、ポッチャはだれでもできると、知りました。

わたしたち、4年生もかわさきパラムーブメントをまねして、ほご者や、3年生をまねいて、ポッチャをたのしみました。おかげでかわさきパラムーブメントをしってもらうことができました。

ぼくは、最初川崎市は、オリンピックやパラリンピックのためにどんな事をしているのかも分かりませんでした。そしてこの1年で学習して、ほかの人にパラムーブメントの事を伝えようとなった時本当にできるか不安でした。けれどパラムーブメントの事をおしえに講師の人がズームでおしえてくれました。それで、どうやってみんなにひろめればいいかがすごく分かりました。それがおとなになってもらえばいいかなと思いました。それで、その1年間勉強したパラムーブメントの事を下の学年と地いきの人に知らせるのを、一生けんめいがんばりました。そしたら感想でみんなすごく理かいてくれたみたいでうれしかったです。またこのようなきかいがあったらまた一生けんめいやりたかったです。

ぼくは最初かわさきパラムーブメントを知らなかったけど、ズームでパラムーブメントの話を知ると、ちがいはステキと言っていました。その時は意味が分からなかったけど色々な人とズームして、そしてあつたりしたらちがいはステキで、たしかにステキだと思いました。車イスバスケットをしたりポッチャをやったらしょうがいの人でも楽しめるなと思いました。かってにおもてなし大作戦をして色々な人が、ちがいを知ってくれたからうれしかったです。

ぼくはパラムーブメントを勉強するまえは、しょうがいの方は目、手、足、耳が不自由な人はかわいそうだなと思ったけど、パラムーブメントを勉強したらちがいて最強最高っておしえてもらってちがいていいんだなと思いました。

わたしは最初パラムーブメントのことを知らなくやったこともないので何かしてみたいと思った時、学校でパラムーブメントのことを話してわたしも役に立たいと思ひ、学校でも調べました。わたしがパラムーブメントをした時、町でもこんなきれいにしたいなと思いました。それから、市役所の人とズームであつたりしてもっとパラムーブメントをしました。市役所の方が学校に来た時、障がい者のことなど知れてこの人たち車イスバスケットをやって障害者がいひをひらがなにして、「わたしたちもふつうだよ」と伝えてくれたり、障がい者でもつらくないよということを書いて1人1人あつてもなくつらくないこともしました。そして、一番心にかつたことは、講師の人とズームをしたことで、話の中でちがいの最強、最高を教えてくれて、わたしはちがいよりも同じほうが良いと思ひていたけど、ちがいが大切ということがしました。色々なことを教えてもらひ、かわさきに伝えられることができました。

初めは、みんなが同じがいいと思ひていたけど、かってにおもてなし大作戦をやつてみんな同じじゃなくていいことを知りました。講師の人から教えてもらったちがいて最強で最高ですきということから、ちがいは大事ということが分かりました。ちがいがあつても気にしないで、だれも、いじめないでほしいです。ちがいのことをいろんなことに言つて、世界の人にもつなげていひてほしいです。

さいしょは、パラムーブメントってなんだって思ひていたけど、市役所の方が一番さいしょにパラムーブメントのことをおしえてくれたりしてくれたおかげで、パラムーブメントのことがすごく分かりました。だから、それから総合のじゅ業でパラムーブメントのことを調べたりして、いろいろなことをしました。たとえば、かってにおもてなし大作戦や、ポッチャです。ポッチャはちいきの人にも広めてみんなに分かつてもらえました。よかったです。そして、講師の人にも学校に来てもらひました。そして車イスバスケットも見せてもらひました。とてもすごかったです。講師の方は、オリンピックにもなかなかでられなかつたそうです。だからずっとがんばつてれんしゅうしてたら車イスバスケットでオリンピックにでられたと言ひていました。

最初ぼくは、かわさきパラムーブメントをまったくりませんでした。総合の授業でかわさきパラムーブメントについて調べていました。そして、講師の人の言葉を聞いて、意見が変わりました。それは、「ちがいてすてき！」「ちがいて最高で最強」という言葉でした。初めは、同じの方がいいなと思ひていました。でも講師の人の言葉で変わりました。

私は、最初同じ所をいっばい見つけければ良いと思ひていました。でも講師の人から「ちがいてステキ。最高で最強」ということを教えてもらひました。教えてもらつてから、同じだけではなく、ちがいも見つけようと意しきしてました。かわさきパラムーブメントを知つて、考えが変わり、友達との会話が変わりました。講師の人に教えてもらったこと、かわさきパラムーブメントを知つて考えが変わつたこと、考えたことをこれからわすれずに、生活に活かしていきたいです。

今まで、ちがいは最高、最強ということを知らなくちがいてどうということなんだろうと思ひていたけど、講師の人の話やかってにおもてなし大作戦に出、私は、ちがいは最高で最強ということをよく知つて、考えが最初の時と変化しました。かってにおもてなし大作戦の時、講師の人が言つていた、「他の人の違ひを大切にする」ということをすごく意しきしながら、いろんな人にかわさきパラムーブメントを伝えることをしました。私はこれからいろんな人にかわさきパラムーブメントを伝えたいし、困つている人を助けて、誰もが住みやすい街にしたいです。

ぼくは、かわさきパラムーブメントをやりました。一番いんしょうにかつたことは、ポッチャ大会です。どうしてポッチャ大会にしたのかというみんなにかわさきパラムーブメントをしつてもらひ、ポッチャというスポーツをしつてもらつたからです。

僕は、パラムーブメントを知って、ちがいのことも教えてくれたりしてくれました。一番印しように残っているのは、パラムーブメントの体験で、ポッチャが一番印しように残っています。そのほかのまなびももちろん楽しかったけど、その中で楽しかったのがポッチャです。

ポッチャは最初はボールをなげるあそびだと思っていました。けどこのポッチャはしょう害がある人のために作られていることを知ってすごいと思いました。ふつうのボールをつかうスポーツはしょう害がないひとむけが多かったです。だからこんなにいいスポーツを作った人がすごいと思いました。いろんな人ができるスポーツでいいと思いました。

私は総合の学習を通して、しょう害のことについて考えてみました。しょう害はその人にとって苦手な事、うまくできない事。例えば、この人は目が見えない。他には、足をなくしてしまって歩くことができない。このようなしょう害はとりのぞけます。目が見えない人だったら、何かこまった事があつたら少し手伝ってあげてそのしょう害はなくなる。だから、改めて、しょう害がある人がいたら、手伝ってあげようと思います。

私は、しょうがい、だれにでもあると思います。どうしてかという、しょうがいはこせいだからです。だからしょうがいは治せません。だって、目が見えない人はてんじブロックをつければいいし、いろいろな工夫をすればしょうがいは、とりのぞけます。だからみんなのしょうがいをとりのぞきたいです。「心のバリアフリーエピソード」に応募した人が「小学生の子たちがたすけてくれた」と書いていました。だからそんな人がふえてくれたらいいと思います。

私はかわさきパラムーブメントの学習を通して、しょうがいは人が作ったり消したりしていると、リフレーミングを見て思いました。なぜかと言うと、友だちが手伝えばしょうがいはきえるけど、友だちが手伝わなかったらしょうがいがきえないから、一人一人が手伝えばみんなのしょうがいがきえると思います。

ぼくは心のバリアフリーで感じたことは協力や助けあつてることがすてきだと思いました。ぼくがこっせつしたときみんなに助けってもらいました。ランドセルをもたせたり、つくえをはこんでもらってかんしゃしてもらっています。ほんとうにいろいろなことをしてもらってわるいって思っているけど、みんなのおかげで助かりました。

あなたは、健じょう者ですか？それともしょうがい者ですか？そうきかれましたらどうこたえますか？私は今学校でかわさきパラムーブメントの考え方やちがいの大切さを学んでいます。それを、広めたいということで、「かってにおもてなし大作戦」というイベントに出してみたりしています。パラムーブメントとは、何？と思う人がいると思いますが、全ての人が活やくできる社会にするための運動で、つまり一人ひとりの個性を大切に、ちがいをみとめることです。私は学習する前、車いすのつたおじいさんに「こんにちは」と声をかけられたら、こわくてにげている時がありました。けどしょうがいはこせい。つまり、ちがいだと思います。みとめると、本当に、いい世界になると思います。みなさん、あなたは、苦手なことが、ありますか？できないことはありますか？みんなあると思います。それは、私たちにとってのしょうがいです。でもしょうがいは、とりのぞけます。なぜなら、自分が苦手でもそれが上手な人がいます。おしえてもらえばいいのです。だから、一人一人ができないこと、できることを大切にしてください。

ぼくは総合のじゅぎょうで車いすバスケットをやって大切なのは助け合いだと感じました。なぜなら、一人一人がパスをして助け合わさないと、シュートは入らないし、車いすバスケットが苦手な人を助けてあげないと、どこにパスすればいいか分からなくなっちゃってこまってしまいます。

だから、とくいな人が「こっちにパスして」などの声をかけ合い、助け合うことをして、仲間とのキズナが深まる。そう思ったから助け合うことが大切だと考えました。

ぼくは、総合のじゅ業をとおして、ぼくはけがをしていてかいだんをあまりのぼれない人がいても、エレベーターやエスカレーターがあったら、その人のかいだんをあまりのぼれなくて、上にいきにくくなることはありません。なので人は、その人のできないことを、できるようにすることができるとなりました。

社会には、色々な障がいがあります。その障がいは、数えれば、数えきれないほどありますよね。ぼくは、障がいについてこう考えています。「できないこと、苦手なこと」それがぼくにとっての障がいだと考えています。その障がいを作っているのは、ぼくたち自身なのかもしれません。そして、ぼくたちにはその障がいをなくすこともできます。ですが、それを無視すれば、その障がいがいつまで経つてもとりのぞかれないままになってしまいます。だから、ぼくたちみんなで助け合つて、社会にある障がいを取りのぞける社会にしたいですね。

ぼくは、パラリンピックの選手にあって、ちがいて大切をおしえてくれました。それにちがいをみとめると自分にかえてきます。それをきっかけに、いろいろなことをかんがえるようになりました。たとえば「ちがいて言うのは、ようするに人一人ひとりの個性なんだ！」などをかんがえるようになりました。そのかんがえもふくめてぼくは、ちがいをみとめあい、たのしくいろいろな人がいる社会をつくりたいです。

私は、総合のじゅぎょうでしょうがいには工夫をすれば、ないと考えました。しょうがいをなくそうとすれば、できると。たとえば、車いすの人がだんさでいけなくても、だんさをなくしたり、てつだえば、それはしょうがいではありません。やりやすいかんきょうをつくり工夫をすると、そのしょうがいはなくなります。なので私は、しょうがいは、少し工夫するだけで、なくなる物だと思いました。

私は今学校の授業でパラリンピックなどについてべん強しているのですが、かわさきパラムーブメントを見つけた時、とてもびっくりしたし、すごく感動しました。私は「えっ、なんだこのプロジェクトは！？いろんなこせいをチャンスに…すごいすてき…」と思いました。こせいをチャンスにするという考えはとてもすてきだし、「未来を変えていく」というかわさきパラムーブメントの言葉はちがいがたくさんあって最高の未来を作り上げていこうということを伝えられているかのように感じました。

ちがいも、こせいも、しょうがいも。

それぞれのこせいをみとめ合ってとてもすてきな未来を作り上げていきたいです。

私が道を歩いていた時に、松葉杖の人がいました。しばらく後を歩いていると、そこに石があり、その人は転んでしまいました。そこで持っていた物を落としてしまいました。しゃがむのに一回一回松葉杖を置かないといけないので、落とした物を拾ってあげました。そうしたら「ありがとう」とうれしそうに言われて、私もうれしくなりました。私は、小学校の総合のじゅぎょうで、かわさきパラムーブメントを学びました。そこでみんながこまっているときは、助けあえばいいと、学びました。この出来事があって、やっぱり助け合いは大切なんだと思いました。

ぼくは総合の授業を通して障がい者と健じょう者というまわりはなんであるかと思います。足が動かせないと身長がちがいやはだの色がちがいも障がいだと思います。なぜ特定のしぼられた人たちが障がい者と言われるのでしょうか。なんで個性が違う人を尊ちょうしないのでしょうか。世界の一人ひとりがこれを理解し個性を認めて、ぼくはみんなが個性を認めだれもが明るく笑顔になっている世界にしたいです。

私は、総合の授業をやっているのですが、その中で初めて、人と協力する事の意味と、ちがいをみとめ合う事が大切だと感じました。私がこっせつした時、学校におくれていくことになりました。私は、「いろいろ言われるのか」と思っていたが、じょうきょうをよくはあくしてくれたようで、松葉づえや荷物をもってくれました。私のクラスには、いろいろな個性をもった人がいます。私だってできない事はいっぱいあるし、みんなできる事とできない事があります。でも、ちがいも個性のうちの一つなので、個性をみとめ合えば、そのしょうがいという個性もとりこえられると私は思いました。

わたしは総合のじゅぎょうでかわさきパラムーブメントのことを勉強しています。そこで、わたしはしょうがいは無くせるものだと思います。どうしてかという、わたしはめがねをかけないと、とおくのものがよくみえません。だけど、めがねという人がつくったもので、そのとおくのものがよくみえないというしょうがいは無くせるからです。だから、わたしもこまっている人がいたら、助けてあげて、そのこまっていることを無くしたいです。

私は、パラリンピック、車イスバスケの選手の人たちにリモートでパラリンピックはなにか？などしつもんをしました。講師の人がこんな言葉をいいました。「ちがいて最高で最強なんだよ」と教えてくれました。それで私は考えました。Aさんは国語がとくいです。だけど算数がにがてです。Bさんは国語がにがてです。だけど算数はとくいです。AさんはBさんに、BさんはAさんに教え合うだけでにがてなことなどがなくなると思いました。だから私は大切にしていこうと思いました。

私は総合で車いすバスケ選手の人たちから教えてもらったことがあります。それは「ちがいは、最高で最強」です。たとえば、Aさんは国語がとくいです。だけど算数はにがてです。Bさんは、算数がとくいです。だけど国語がにがてです。AさんはBさんに、BさんはAさんにおしえあえばいいと思います。なので「ちがいは最高で最強」がたいせつだと思います。